

思いで広がるペガサスの翼

ペガサス 40 代表 オオクマ タカシ 大隈 俊

30 代後半まで続けたトトカルチョ湘南を引退した後、私生活の忙しさもあり数年間サッカーから離れていた。しかし先にペガサスに加入した同期達が試合後に楽しそうにアイスを食べている姿を Facebook で見ているうちに自分もまたサッカーをやりたくなって 2014 年の 42 歳の時にペガサスに加入することにした。とは言え元々高校時代もずっと B チームだった実力に加えてブランクで思うように体も動かず、最初はあまり戦力になれずにいた。このままでは加入した意味がないと思い、毎日腹筋をしたり、時々リフティングをしたり、フットサルの個人参加をしたりしているうちに少しずつ筋力と技術が改善して次第に試合出場機会も増え、多い時で年間 2 得点することもできるようになった。

それでも試合での貢献度が高いとは言えないので、せめてそれ以外のことでチームに貢献しようと思い、2015 年から広報担当として HP に掲載する試合の戦況報告レポートを執筆するようになり、2017 年に神奈川シニアサッカーリーグ四十雀 1 部の副競技委員、2018 年に正競技委員となり、本年 2019 年にはチームの代表にまでなってしまった。ただそうした役に就き、チームやリーグの代表として人前で話したりすることで他チームやペガサスの上の世代の人達との人脈が広がり、元々あまり社交的とは言えなかった自分が積極的に人と関われるようになっていった。

また自分が実際に運営に携わることで、これまでも多くの諸先輩方が湘南サッカーを支えてきたのだと気付くことができた。一生サッカーを続け、何歳になっても成長できる場があるというだけでも簡単なようで実は難しいことだと思う。実際にそこに魅力を感じて参加している非湘南高校出身者がペガサス 40 では現在約半数を占めている。そうした 1 人 1 人の思いが 1 枚 1 枚の羽のように合わさってペガサスの翼となっているのだろう。その翼がさらに大きく広がってペガサスが 50 年、100 年後も天を翔け続けていることを願っている。